

第 2 回能代市都市計画マスタープラン及び能代市立地適正化計画策定委員会 (書面開催)

－ 意見および回答 －

【報告事項】

(1) まちづくりの課題について

No.	意見等（策定委員より）	回答
1	課題①について、人口減少の今後の進展はメッシュデータで地域的に把握できており、現況生活サービス施設の立地もプロット図で把握されている。公共系サービス施設の今後は市の取り組みでコントロールできるが、商業系については土地利用規制等でコントロールすることになる。そのため、まず市内の商業床面積のこれまでの動向や、1 人あたり商業床面積の今後の推計から、将来における商業床面積の総量を推計してはどうか。 そして、現況の商業床面積のメッシュ等による分布把握と将来の分布予測を行えば、拠点形成にかかる課題が明瞭になると思われる。（人口減少による商業床需要の減少、しかし一方で拠点以外での商業床面積の増加が心配である。）	小売業売場面積の推移をみると、平成 14 年から平成 26 年にかけて、市全体では 16.8% (H14: 120, 270 m²、H26: 100, 078 m²) 減少となっている。一方、同期間における中心市街地では 51.3% (H14: 39, 611 m²、H26: 19, 306 m²) の減少となっており、市全体よりも減少率は大きくなっている。そのため、小売業売場面積の市全体に対する中心市街地の割合は減少している。(H14: 32.9%、H26: 19.3%) この傾向は、今後も一定程度継続していくものと予想される。 具体の推計に関しては、①最新データが「市全体が H28、中心市街地分（立地環境特性格別統計）が H26」であり古いこと、②メッシュデータの最新も H26 であるほか、経年比較できないことから、推計は行わないこととした。
2	課題①について、本市は、能代山本地区の中心都市であり、八峰・三種・藤里等の住民の生活を支える都市構造を併せ持つ「市街地」であることも考慮しなければならないと思う。	本市は、秋田県が策定する都市計画区域マスタープランにおいて、藤里町、三種町、八峰町の 3 町を含め能代広域都市圏として位置づけられ、広域的な交流・連携の結節点としての役割や、地域特性を活かした交流空間としての役割を求められている。
3	まちづくりの課題抽出にあたっては、都市圏の中核都市である貴市の状況を鑑みた場合、周辺の八峰町、三種町との人流、物流等の将来の動向を見据えた分析をすべきではないか。	また、1 市 3 町で、能代山本定住自立圏を形成しており、互いに連携・協力し、住民の生活に必要な機能を確保し、定住を促進し、圏域全体の活性化を図っている。

No.	意見等（策定委員より）	回答
		平成 27 年の国勢調査では、本市で従業する者（26,738 人）のうち、12.7%の 3,388 人が 3 町から流入している。 また、平日・休日（各年 4 月・14 時時点）の市内滞在人口をみると、能代山本地域内からの流入人口が上位にあることが確認される。さらに、各年の転入者数をみても、能代山本地域内からの転入者が上位にある。（37～39 ページ） いただいたご意見を踏まえ、目標 1 を以下のように修正する。 【資料 2：7 ページ】 （修正案） ・本市は、能代山本地域の中心都市であり、中でも能代地域の中心市街地は、… （第 2 回委員会時点） ・能代地域の中心市街地は、…
4	①について、人口減少と市街地中心部のスポンジ化を同一と捉えていると感じます。人口減少は市域全体の問題として取り組むべき課題であり、「市街地を中心とした人口減少への対応」という課題の設定は誤解を招く記載の恐れがあると思います。中心市街地の拠点性の低下に関しては、③・④で述べると整理されるかと思います。 つまりは、人口減少は、あるものが無くなる課題で、中心市街地への誘導はあるものを移動させる課題だと考えます。出現させることと、誘導させることはあくまでも混同してはならない大切な課題であると思います。	いただいたご意見を踏まえ、課題を以下のように修正する。 【資料 2：4 ページ】 （修正案） ①人口減少に対応した市街地中心部等の拠点性の維持 （第 2 回委員会時点） ①市街地を中心とした人口減少への対応

No.	意見等（策定委員より）	回答
5	課題③の市街地の外延化の抑制に向けた適切な土地利用の規制・誘導は地方都市共通の課題である。 重要なことは、都市計画的な具体的対応を如何に展開するかだろう。それが課題である。「商業系への土地利用規制等」の対応に加え、立地適正化計画に基づく市独自の誘導強化策（越前市の取り組み等）や白地での規制強化（横手市の取り組み等）が必要だろう。	いただいたご意見を踏まえ、都市計画マスタープランの「全体構想：土地利用構想」において、下記の方方向性・方針を位置づける考えである。 【資料2：17・24 ページ】 市街地を取り囲む田畑等の農地のうち、将来的に市街化圧力の高まりが予見される区域を対象とした、都市計画制度の活用による土地利用規制の適用検討
6	課題④について、空き地・空き家はすでに憂慮すべき事態となっており、対応や予防というレベルではなく、早急な対策実施が望まれていると思う。	空き家について、本市は、平成 30 年 3 月に「能代市空家等対策計画」を策定し、空き家等の対策に関する基本的な方針や施策を位置づけ、順次、取組を進めている。 「都市のスポンジ化」は都市計画において重要な課題となっており、都市計画マスタープランや立地適正化計画においても、空き家等の対策を推し進めていく観点から、「都市機能や居住の誘導に際し、空き地・空き家を活用」「都市のスポンジ化対策の推進」等を位置づける考えである。 【資料2：19・33・34・36・37 ページ】
7	課題⑤の農山村集落における都市機能の維持、に若干違和感がある。都市機能というより、集落機能ではないか。 人口減少・高齢化の進む集落の維持や活性化においては、新たな生活スタイル等を求める層への移住支援の視点が必要と思われる。（八峰町の取り組み等）	いただいたご意見を踏まえ、課題を以下のように修正する。 八峰町が実施する移住支援施策（居住支援、就職・起業支援、移住後の交流支援）は、実現化方策設定時の参考とさせていただきます。 【資料2：5 ページ】 （修正案） ⑤市街地中心部における都市機能の誘導促進および農山村集落における日常生活に必要な機能の維持 （第2回委員会時点） ⑤市街地中心部における都市機能の誘導促進および農山村集落における都市機能の維持

No.	意見等（策定委員より）	回答
8	都市機能⑤について、生活に必要な施設の誘導を促進するということだと思いますが、都市施設⑧の用語との区別がつきにくいと感じます。また、⑧には⑦の都市交通の話も入っており、「交通」の話は交通の話で計画道路を廃止し（つまりは自家用車の利用を抑制し）公共交通を充実させる。役所や公園を含めた都市で生活する上での「アメニティ」の話は、「都市機能施設？」としてまとめた方が分かりやすいのかと思いました。おそらく「交通」に関しては行政の扱いとしてソフトの問題とハードの問題で区別をつける方法もあるかと思いますが、市民にとっての「交通」は両方を孕んでいるので、まとめて課題として示すことが望ましいのではと私は感じます。	用語の区分について、明確に定義づけたうえで使用するよう留意する。 委員会資料において、課題⑤の「都市機能」は、医療・福祉・商業・子育て支援等の各種の生活サービス施設を指して使用しており、立地適正化計画における「都市機能増進施設（いわゆる誘導施設）」にあたるものである。 課題⑧の「都市施設」は、都市計画で取り扱う施設の総称として使用しており、道路や公園、下水道等の都市計画決定を行う施設を対象としている。 課題⑧の都市計画道路については、将来想定される自動車交通量（需要）に対し、「道路網」や「容量（車線数や幅員等）」の必要量を検証し、必要な見直しを行うという「ハード面」からの課題として整理している。 一方、課題⑦は「公共交通」に着目し、移動手段の確保など「ソフト面」からの課題として整理している。本市の移動手段は自家用車主体であり、しばらくは、その状況が大きく変わることはないと考えている。しかし、自動車免許を持たない若年層や高齢者等を対象とした移動手段を確保する必要性があり、収益性も踏まえながら、公共交通の利便性向上と利用の促進をソフト面で進めていく必要があると認識している。
9	課題⑥について、地域経済の維持・活性化には企業誘致も含まれるが、工場規模等により現行の土地利用計画では対応できない場合が予想される。新たな工業団地の造成等の必要に迫られた場合の対応について市はどう考えているか。	中国木材株式会社（広島県）が、本市への製材工場建設に向け、能代工業団地のうち約 27ha を取得することとなり、能代工業団地の未分譲地の課題は解決される見通しである。 今後、市内における企業誘致のための用地が不足することになるため新たな工業団地の整備に向けて候補地調査を行うこととしている。 【資料 2：24 ページ】

No.	意見等（策定委員より）	回答
10	課題⑦について、地域公共交通は本市立地適正化計画の要と捉えている。拠点間を結び、域内住民が都市機能を十分活用できるよう公共交通サービスは利便性の充実を含め「拡充」の必要があるものとする。	いただいたご意見も踏まえつつ、都市計画マスタープランの「全体構想：交通体系構想」の検討を行った。 【資料2：30・31ページ】
11	④に書かれている通り、空き地・空き家対策は人口・世帯数の減少にともなうものである。①にあるように、ハード的に市街地の機能を維持するだけでは人口減少対策に結びつかない。全体を通して感じたのは、少子化対策に関する課題提議が見当たらないのが残念である。	人口減少対策は、本市の重要課題であると認識している。 本市は、「人口減少の抑制」および「地方創生」の実現を目指すための「基本指針」として、平成28年3月に「能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）」を、令和2年6月に第2期総合戦略を策定し、各種の施策を展開している。 都市計画マスタープランや立地適正化計画の策定にあたっては、総合戦略など、市の分野別計画と連携を図り、人口減少や少子高齢化等、本市が抱える課題に対応するため、土地利用や都市機能などの基盤づくりに係る取組を位置づけていくこととなる。
12	働き方改革の視点から「在宅勤務・モバイルワーク・サテライトオフィス勤務」等と空き地・空き家対策を結びつける対応も課題ではないだろうか。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、実現化方策や誘導施策の検討時）の参考とさせていただく。 なお、令和3年度より、「サテライトオフィス設置等事業補助金」を創設している。
13	⑨の現状・将来見通しであるが、米代川二ツ井地域における掘削整備の現状を記載し、現状の情報共有が必要では。	二ツ井地域では、「米代川河道掘削工事」を実施し、令和2年度末に工事を完了している。 【資料1 参考資料2：7ページ】
14	課題⑩について、地域資源として景観や祭などを守っていききたい、活かしていきたいなど、具体的な記述は必要ありませんか？	自然景観や祭等は、地域の重要な資源として、保全や活用をすべきと考えており、いただいたご意見と市の認識に相違はない。 目標4の説明に、その内容は記載している。 【資料2：8ページ】

No.	意見等（策定委員より）	回答
15	P10 に「元気な高齢者が活躍」という文言がありますが、これまでの視点ですと、人口減少・高齢化という言葉だけで「弱い」というイメージを受けておりました。この文言により元気な高齢者が活躍する取り組みに繋がるような検討をしていただけたら素晴らしいと考えます。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
16	能代市の現状は、国道に付随したロードサイド店舗によって買い物が成り立っていると思いますし、実際に便利な面も否めません。今後 10 年、さらには 20 年先を考えると確実にモビリティの変化、デリバリーの変化が起こると予想されます。つまりは、移動はパーソナルモビリティで自由に、買い物はデリバリーで移動しなくても良くなることも予想されます。そうした時に、高齢者に対する街のあり方と、若者に対する街のあり方が全く違うことも予想されますし、現在のコンパクトシティ的な考え方が必要なくなる恐れもあります。技術や生活の様式によって不確定であり、選択性を含むべき問題ではありますが、現在、中心市街地に住む人が少なくなっていること、また国道周辺にスプロールし住む場が移動していること。これらは、住民が選択し起こった結果であることを鑑みると、一概に中心市街地に都市機能があることが今後の技術革新の中で大切なことかは少なかれ疑いながら課題を設定する必要があるかと思います。あくまでも、中心市街地の商店街に人が溢れ、歩行者にとって優しい街が理想ですが、能代市の人口規模と都市機能のあり方では、もしかすると現状の面型の機能集約ではなく、線形の機能集約の方が市民は生活しやすいのではないかという疑念が多少なりとも私の中にあります。	現在のコンパクトシティ的な考え方が必要なくなるといったご意見にあるとおり、最新技術を例にとると、個人利用の自動運転の普及は、「ドアツードアの移動」「移動制約者の行動範囲の拡大」等に寄与し、機能集約の必要性低下につながるという見方がある。 しかし、居住地が拡散している状態で個人利用の自動運転が普及した場合、「広範な道路ネットワークの整備や維持」「目的地周辺での少人数車の集中」「市街地の分散による下水やごみ収集等サービスのコスト増」など、市民負担が増加するようなデメリットが発生する可能性が想定される。 一方、生活サービス施設の分布状況に着目すると、集客力のある商業施設は国道 7 号沿道に立地している状況だが、商業施設を含め、医療・福祉・子育て支援等の生活サービス施設は、能代・二ツ井地域の中心部を中心に集積している。 市としては、これまで長い年月をかけて形成した能代・二ツ井地域の中心部を「中心拠点」とし、当該拠点の都市機能や居住の維持、または積極的な誘導・集積を進めていく、すなわち、「都市機能や住居等が徒歩等で動ける範囲にまとまって立地し、あるいは、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの施設等に容易にアクセスできる環境づくり」を進めていくことで、人口減少下

No.	意見等（策定委員より）	回答
	前回も少しお話しさせていただきましたが、中心市街地の居住者集が減っているのは、商店と住居が合わさった形式の中で、商売を辞め専用住居を求め郊外に移り住んだ人や、庭付きの専用住居を求め郊外に住んだ若者がいる中で、中心地に住んでいる人は昔からそこに住んでいる人が多く、だからこそ高齢化が進み中心市街地のスポンジ化が比較的進んでいるものとお示しいただいたデータから読み取れます。 最初の出現と移動の問題、また、郊外に住処を求めた問題、これらを踏まえると、中心市街地は居住を誘導する課題というよりも、市内交流人口を増やすような移動の問題や店舗の出店者もしくは出店企業を誘致する課題と解釈した方が理解しやすいのかもしれませんが。つまりは、居住の問題と中心市街地の賑わいの問題もまた混同せずに区別して考える必要があると考えております。	にあっても持続可能な都市を構築していきたいと考えている。
17	①～⑪まで課題として適格と思います。	—

(2) まちづくりに関する「市民アンケート調査」結果について

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	一般市民回答者の半数以上が 60 代以上（54.7%）で、人口の年齢別構成比（60 代以上約 45%？）を 10 ポイント近く上回ることから、本アンケート結果と評価は高齢者の指向に傾いていると捉えている。子育て世代を含め 20 代から 50 代までの各階層の指向を把握するため、年代別の結果及び評価を追加していただきたいと思う。	年代別の集計結果は、資料 1 参考資料 1 のとおりである。 生活サービス施設に関し、若年層では「スーパーや飲食」、高齢層では「医療施設」に対し利便性の確保を望む意向が確認される。 また、10～20 代では、公共交通の利便性確保を望む意向が確認される。 【資料 1 参考資料 1】
2	アンケートの回答者属性が、60 代以上が 50%以上なのに驚きました。将来への計画なので、20 代から 40 代の声をもっと拾えたら良いと思いました。	調査対象者の 2,000 人は、市全体の年齢構成比を基に抽出している。そのため、調査対象者自体の 60 歳以上の割合が高くなっている。（45.5%） なお、年代別の回答率は、以下のとおりである。 【年代別回答率】 ■10 代：17.1% ■20 代：36.1% ■30 代：41.3% ■40 代：48.2% ■50 代：51.7% ■60 代：61.4% ■70 代：69.4% 今回の調査では、若年層の回答率を上げる工夫として、Web 回答を可能とした。Web 回答は回答者の約 1 割（107 人）を占め、そのうち 92 人が 50 代以下であった。 今後、同様の調査を実施する際においても、若年層の回答率を上げていく工夫をしていきたい。
3	市民の意見から総じて、現状の都市機能の上で成り立つ生活を意識しているように感じました。なので、道路やスーパー・コンビニ等が充実して欲しいと願う一方で、市街地のまちづくりや空き家への対策が課題と思う矛盾とも取れる葛藤が見られます。 しかし、高校生は農地の保全や、中心市街地への商業集積、公共交通の充実等の自己体験や現状の不便さからの意見	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
	が出ています。逆に言うと、多くの大人はモータリゼーションの中で生きてきており、それを当たり前で不便と感じていないとも受け取れます。車がなければどこにも行けないと感じている高校生の意見が一番現状を反映しているのではないのでしょうか。 また、高校生の市外への住み替え意向が高いのは、単純に市内に仕事がないからであるとも考えられます。実際に多くの若者は市外はおろか、県外へ就職しています。都市構造とは違うのでそれらの設問が設けられなかったものと考えられますが、理由等から逆説的に考えると、高校生の年代は中心地への商業施設や居場所を強く望んでいて、その場を作ってあげるとそこに留まることが想定されます。さらに、その体験が都市の楽しみを知ることにつながり街を育てる人間を育成することにつながると感じました。ある意味、高齢者よりも高校生の方が良い意味で街についてシビアに捉えており、街について飢えているように感じます。 仕事を作り出すのは難しい課題ですが、街を育てる心を育み、そんな人間が将来仕事を産んでいくことが期待できる結果であったと思います。そんな高校生が街に寄与できるように、地域で懐を深く育てていくことが最も大切なことかもしれません。	
4	アンケート結果については、属性が極端なので設問によっては分析も必要だと思います。私は、コンビニは能代市内にたくさんあると思っています。でも冬場など交通手段が限られる高校生は不便と感じるのかな。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
5	商業地の集積地や農地のあり方について、高校生の視点に嬉しいと思いました。「コンパクトシティ（案）」は、どこに行ったのでしょうか。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
6	特に補足、質問はありません。 各項目共にアンケート結果として貴重な資料だと思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
7	一般市民と高校生に分けてアンケートを実施したことにより、結果が同じ意見、違った意見となったことが良い材料になっていると思われます。この結果も踏まえ計画を策定していただければと思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。

【検討事項】

(3) まちづくりの将来像等の設定に向けた考え方

■まちづくりの目標の設定に向けた考え方について

○視点1 拠点の形成や連携に関する事項

説明内容：拠点の都市機能や居住を維持し、または積極的な誘導・集積を進めるとともに、規模や機能が異なる拠点どうしを連携し、保有する機能・資源を補完し合っていくことが必要である。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	考え方に異論はない。 各拠点の機能を明示化することが、今後必要であろう。	各拠点の位置づけは、都市計画マスタープランの「将来都市構造形成の方針」にて位置づけを行った。 また、各拠点の具体的な土地利用等の方針について、「全体構想」の中で位置づけを行った。
2	拠点の都市機能と、住居の維持はベクトルは同じだが、アプローチは異なると思われる。よって、都市機能としての集積と、住居の誘導は同一にせず慎重に扱った方が良くと思われます。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、実現化方策や誘導施策の検討時）の参考とさせていただく。
3	同意できます。 市町村合併の時点からこの能代、二ツ井の2大拠点が軸（街、人口拠点）となってきましたので拠点形成、連携についての計画はこの説明内容通りとなると思います。 ただ一考、下段のイメージ図を見てふと感じたのですが、現在の拠点とは昭和時代に駅が出来てそれを中心に人が集まり街が栄えた結果、拠点となったもので、現在もこの先も鉄道以外のEV車、その他新エネルギーに特化した乗り物等での移動手段が増える事で拠点が自然と無くなり均一化となった場合でも発展は見込めないのでしょうか？想像できないので気になるころではあります。	移動手段の増により拠点が自然と無くなる事例としては、個人利用の自動運転の普及が考えられる。 個人利用の自動運転の普及は、「ドアツードアの移動」「移動制約者の行動範囲の拡大」等に寄与し、機能集約の必要性低下につながるという見方があるが、居住地が拡散している状態で個人利用の自動運転が普及した場合、「広範な道路ネットワークの整備や維持」「目的地周辺での少人数車の集中」「市街地の分散による下水やごみ収集等サービスのコスト増」など、市民負担が増加するようなデメリットが発生する可能性が想定される。 市としては、これまで長い年月をかけて形成した能代・二ツ井地域の中心部を「中心拠点」とし、当該拠点の都市機能や居住の維持、または積極的な誘導・集積を進めていくことで、人口減少下にあっても持続可能な都市を構築していきたいと考えている。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
4	内容に同意する。 ただ、各拠点の都市機能については、現有機能をすべて維持するのではなく、将来を見据え、拠点間において機能を整理・集約していく考え方も必要と思う。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、誘導施設の検討時）の参考とさせていただきます。
5	居住の維持・積極的な誘導・集積の推進は大賛成である。現状の高速道路体系を考慮し、能代と二ツ井の中心地を重点地域として、あらゆる施策、実験的なものも含めた施策を推進すべきだ。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、誘導施策の検討時）の参考とさせていただきます。
6	「積極的な誘導・集積」とは、なんとなく理解できるが、自分なりの具現化が難しい。	今回の議事内容である、都市計画マスタープランの「全体構想：土地利用構想等」において、「都市機能や居住の誘導」「機能分担」等の方向性・方針に関する位置づけを行った。
7	人口減少と少子高齢化の中で、どのように拠点を分散し、機能させるのでしょうか？具体的な案を指して欲しい。	
8	市街地の中に東能代地域が記入されていない。	視点1では、市街地のうち、特に能代・二ツ井地域の中心部に着目し、拠点の形成や連携に関する考え方を記載したものであるため、東能代についての記載はなく、同様に向能代・落合についても記載していない。 東能代は、主要な住宅市街地であり、生活サービス施設利用可能件数（資料3：4ページ）をみても、能代地域中心部とは、保有する機能の種類・数に明確な差異があると認識している。 上記を踏まえ、規模や機能が異なる拠点どうしの連携、保有する機能・資源の補完を促進していく考えである。
9	能代および二ツ井地域の中心部を拠点とし、周辺の集落との連携を図りながら、誘導を進めることについては同意します。	—
10	同意できます。	—

説明内容：都市機能の維持や誘導等を促進することで、人・情報の交流や文化活動の活発化を図り、幹線道路沿道の商業地とのすみ分けを図っていききたい。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	考え方に異論はない。 拠点に期待される機能のうち、商業機能に着目するならば、幹線道路沿道の商業地と、如何なるイメージですみ分けを行うのか、また如何なる都市計画的手法によりイメージを実現させるのかが重要である。	能代・二ツ井地域の中心部と国道7号等の幹線道路沿道商業地との「すみ分け」については、商業機能単体で実施することは困難であると考えている。 一方、能代・二ツ井地域の中心部は、幹線道路沿道商業地に比べ、医療・福祉・子育て支援・行政等の多様な機能を多く有している。これらの多様な機能を活かし、多様なヒト（性別、世代、職業、居住地 等々）が集まり・交流でき、様々な活動が活発化していく場（＝新たな価値を創造する場）を目指していくことで、「すみ分け」を行っていききたいと考えている。
2	同意できます。 すみ分けを図る事は重要なので、法や条例規制、用途地域の設定などでこれに対応していくべきと思います。	本内容については、都市計画マスタープランおよび立地適正化計画を検討するうえで重要な論点と捉えており、本委員会でご議論いただきたいと考えている。 【資料2：19～21 ページ】 【資料3：3～5 ページ】
3	幹線道路沿道の商業地とのすみ分けについては、是非とも図っていただきたく同意します。	
4	すみ分けは難しいと思う。	
5	確かに、幹線道路沿線に商業地・商業施設が形成されるのも時代の要請だろう。すみ分けを図るのか連携するべきなのか課題である。	
6	都市機能の維持や誘導等を促進する場所や区域がどこなのか、意図を明確に伝えられる表現が必要と思う。	将来都市構造において「誘導促進エリア」を追加した。 本エリアは、立地適正化計画における居住誘導区域（本区域の内側に、都市機能誘導区域を含む）の境界を表現したものであり、都市機能や居住の維持や誘導等を促進する概ねの範囲を示すものである。 【資料2：10・11・16 ページ】

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
7	促進するだけでは、交流や文化活動の活性化は生まれないと考えております。 よって、商店街との協力や若者を活用したイベント等を継続的に行うこと、もしくは、行おうとしている個人や団体をサポートする制度を設けることが必要に思えます。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、実現化方策や誘導施策の検討時）の参考とさせていただきます。 なお、都市機能や居住の誘導とあわせ、「空き地の交流広場やオープンスペースとしての活用」「道路空間を活用したにぎわい形成等に資する取組支援」「居心地が良く歩きたくなる空間づくりに資する各種プロジェクトの実践に向けた実証実験の支援」を位置づける考えである。 【資料2：19・29・34 ページ】
8	大型店が入ってくることにより、街から、住む人も減少することはどこにもあり得ることと思うが、畠町の「アーケード」を今一度、考える必要があると思う。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。 なお、今回の計画策定にあたっては、畠町を含む能代中心部等の拠点性の維持・向上に向けた各種の方向性・方針の位置づけを行っていく考えである。
9	同意できます。	—

○視点２ 防災まちづくりに関する事項

説明内容：ハード対策で全ての災害リスクを回避するのではなく、人命を守ることを前提としつつ、ハード対策とソフト対策、自助・共助・公助を適切に組み合わせた対応を進めていく必要がある。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	「ハード対策とソフト対策、自助・共助・公助を適切に組み合わせた対応」に誰も異論はない。「いいことを適切に行います」という内容となっている。 むしろ、適切な組み合わせの基本的考え方を示すことが必要ではないか。災害危険が想定されるエリアの立地抑制には、前提としての的確な情報提供というソフト対策が先行すべきであり、立地誘導には支援策としての公助が必要である。一方で、そうした対策が整わない段階では、避難訓練等の自助やコミュニティ単位での共助が必要であろう。こうしたことの一つひとつを記する必要はないが、一步踏み込んだ考え方を、抽象的にならざるを得ないが、的確に表現できないか。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、都市計画マスタープランの「全体構想：防災まちづくり構想」や立地適正化計画の「防災指針」の検討時）の参考とさせていただく。
2	同意できます。ソフト対策の重要性（自助・共助・公助）をどう啓蒙していくか、システム化するかが課題であると思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、都市計画マスタープランの「全体構想：防災まちづくり構想」や立地適正化計画の「防災指針」の検討時）の参考とさせていただく。
3	市民の生命・財産を守ることが行政の使命だと思いますので、「人命を守ることを最優先に、」に表現を変更してはいかがですか。	防災まちづくりに関する考えについて、いただいたご意見と市の認識に相違はない。 いただいたご意見を踏まえ、目標３を
4	「ハード対策で全ての災害リスクを回避するのではなく」の部分について、「回避するのではなく」だと誤解を招きかねない。「災害リスクはハード対策だけでは回避できない」と表現したほうがわかりやすいかと思う。	以下のように修正する。 【資料２：８ページ】 （修正案） ◆…、人命を守ることを最優先とし、 … （第２回委員会時点） ◆…、人命を守ることを前提としつつ、 …

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
		（修正案） ◆…、災害リスクをハード対策のみでは回避することはできないことから、… （第2回委員会時点） ◆…、ハード対策で全ての災害リスクを回避するのではなく、…
5	どこの分野でも「自助・共助・公助」は必要であり、今後は「住む人」「歩く人」「お互い様」等も必要と思う。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、都市計画マスタープランの「全体構想：防災まちづくり構想」や立地適正化計画の「防災指針」の検討時）の参考とさせていただく。
6	特定空き家（老朽化して極めて危険）が今後増々増えると思います。先般能代市で初めて強制代執行を行いました。解体費用は能代市で立て替えました。当たり前ですが所有者（相続人）に支払いを請求しているようです。市内の現状を見ますと今にも崩れそうな建物があちこち見られます。今後も多額の費用をかけて強制代執行しなければならない場面が多々起きると考えます。その時に様々な理由で解体費用の支払いを拒否されることが想定されます。このような現状を考えますと肝心なのは、所有者かその子ども（そこで生まれて育った人）が元氣なうちに解体処分していただくにはどうしたら良いか真剣に議論し、仕組みを作ることが大事だと考えます。	老朽化した空き家は、そのまま放置すれば保安上危険となる恐れがあるなど周囲の生活環境に影響を与えるほか、地震時の倒壊や火災など、防災・減災の観点からも対策が必要であるとの認識である。 老朽化した空き家への対応に関しては、所有者に対して適切な管理を促すとともに、改善が図られない場合には、法に基づき、指導、勧告等を行うこととしている。また、「能代市空き家等対策計画」において基本的な方針や施策を位置づけ、順次、取組を進めている。 本市としても、空き家の所有者等が後世に渡って管理意識を継承し、解体だけでなく売却や取得により、空き家の円滑な活用が図られるよう、制度設計を行う必要があると考えている。
7	対応の考え方については同意します。 能代市の場合ですと、中心部へのまちづくりと津波および洪水による回避は表裏一体になると考えられます。防災への十分な対策をしつつ、中心部への誘導を図る施策を市民に納得のいく提示ができるようにする必要性があると考えます。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、都市計画マスタープランの「全体構想：防災まちづくり構想」や立地適正化計画の「防災指針」の検討時）の参考とさせていただく。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
8	具体案が必要。市民の意識改革が必要。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、都市計画マスタープランの「全体構想：防災まちづくり構想」や立地適正化計画の「防災指針」の検討時）の参考とさせていただく。
9	同意できます。	—

○視点３ 産業振興や雇用の確保に向けたまちづくりに関する事項

説明内容：土地利用の適切な規制・誘導、流通に資する道路整備、企業進出や起業、就農がしやすい環境づくり等を進めていく必要がある。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	「流通に資する道路整備」に言及していますが、特別な意図があつてのことでしょうか。「道路や水道・下水道などの社会資本の効率的な整備」としてはいかがでしょうか。	「流通に資する道路整備」は、産業振興に着目した都市整備の考え方として記載したものである。現在、日本海沿岸東北自動車道の整備が進められており、本道路の整備が進むことにより、物流の増加が期待される。 なお、能代工業団地等の主要工業地は、公共下水道の計画区域外であり、各企業で汚水进行处理していただくこととしている。また今後も、本方針を継続していく考えである。
2	同意いたします。ただ、企業進出や就農は今いる人たちが結果を残し、新たな人材を誘導することが大切だと思います。例えば、製材屋(林業関係含む)さんや建築家のコラボによる木都能代の再興、秋田県立大学や秋田高専、秋田美大等の分野を超えた産業を開発し、世界に発信する取り組みが必要と思えます。就農も新たな挑戦をしている若者にフォーカスを当て、そのプロトタイプから他の若者を誘導する等の策が必要だと思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、実現化方策や誘導施策の検討時）の参考とさせていただきます。 なお、都市計画の役割は「土地利用の誘導による支援」であり、そのうえで、各種のソフト施策を一体的に講じていくことが重要であると認識している。
3	可能であれば、起業のあとに「事業承継」の文言を加えたらよいと思います。前段に記載のとおり事業主の高齢化が顕著です。商工会、商工会議所は、「事業承継」が一丁目一番地の業務になっています。 （参考）二ツ井町商工会の会員事業者の代表者の平均年齢 65.4 歳（R 元年 10 月時点）。後継者の不在 68.4%。	いただいたご意見を踏まえ、目標 2 を以下のように修正する。 【資料 2：8 ページ】 （修正案） ◆…、企業進出や起業、事業承継、就農がしやすい… （第 2 回委員会時点） ◆…、企業進出や起業、就農がしやすい…

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
4	土地利用・道路整備等のハードの要素が高い部分と、企業進出や起業・就農などを進めるソフト部分の要素が重要な環境づくりとを同じ括りにするのではなく、分けても良いのではないか。	産業振興や雇用の確保に関し、都市計画の役割は「土地利用の誘導による支援」であり、そのうえで、各種のソフト施策を一体的に講じていくことが重要であると認識している。 そのため、前回委員会提示の内容を基本に、取りまとめていく方針である。
5	車社会になってきているので、空き地の利用等はさらに考えていく必要があると思う。 移住する人が郊外に農地を持つ人も、今後、多くなると思うから。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただく。
6	市の財力は土地の価値を高めていくことが必要であると考えます。稼げる自治体になっていくためにも、環境づくりだけでなく、積極的な営業や、まちづくりの人材を発掘し、官民連携によるまちづくりを推進する必要があると考えます。 また、魅力的なまちづくりを目指して、居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成するための「ウォーカブル」につながる視点があってもよいのではと考えます。	いただいたご意見も踏まえつつ、都市計画マスタープランの「全体構想：交通体系構想、住環境・市街地整備構想」において、「居心地が良く歩きたくなる空間づくり」に関する方針を位置づける考えである。 【資料2：29・34 ページ】
7	同意できます。	—

○視点４ 本市固有の地域資源を活用したまちづくりに関する事項

説明内容：豊かな自然環境との共生に向けた田畑・山林の維持・保全に加え、コミュニティの維持や活性化による文化の保全・活用等を進めていく必要がある。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	地域資源の捉え方として、現時点で有効利用されていない公的遊休施設・土地、あるいは交通量に対して過剰となっている道路空間（車道、歩道とも）は、入らないか。 利活用の工夫はあるが、今後の都市のあり方にとって重要と思われる。	遊休施設等を既存の「地域資源」として捉えるかは議論があるものの、当該施設等の活用によって、新たな魅力を創出していく取組は重要であると認識している。 都市計画マスタープランの「全体構想：住環境・市街地整備方針」において、それらの活用に関する方針を位置づける考えである。 【資料２：36 ページ】
2	賛同できますが、田畑・山林の維持・保全は、土地利用的・産業的解決策であると思います。 それに比べ、コミュニティの維持は都市機能とソフトの両面から成り立つもので、文化の保全については、また違ったベクトル(文化人類学や建築学)からのアプローチが必要と考えます。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、実現化方策の検討時）の参考とさせていただきます。
3	「田畑」を「農地」と表現してはいかがでしょうか。	いただいたご意見を踏まえ、目標４を以下のように修正する。 【資料２：8 ページ】 （修正案） ◆…、豊かな自然環境との共生に向けた農地・山林の維持・保全に加え、 … （第２回委員会時点） ◆…、豊かな自然環境との共生に向けた田畑・山林の維持・保全に加え、 …

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
4	歴史の里檜山（檜山城、国の史跡、多宝院等）が登場しないのは残念です。 室町時代、安土桃山時代、檜山に安東氏（のちに秋田氏）が馬蹄型の広大な山城を築きました。秋田実季が150日間余り籠城し、由利衆の援助を受けて勝利し、その後豊臣秀吉から檜山、秋田郡のうち五万二千石の安堵を受け大名になった話は特に有名です。その後江戸時代になり、関ヶ原の戦いで豊臣方に味方した佐竹氏が常陸から秋田に国替えになり、追従した多賀谷氏が檜山に居館を築いて能代山本地域の政治と文化の中心となった場所です。松並木にみられるように羽州街道沿いで交通の要衝でした。檜山無くして能代を語ることはできません。	いただいたご意見を踏まえ、目標4を以下のように修正する。 なお、いただいたご意見のとおり、檜山の歴史・文化は重要な地域資源と捉えており、特に、都市計画マスタープランの地域別構想において、本地域資源を活用した方針・取組を位置づけたいと考えている。 【資料2：8ページ】 （修正案） ◆…景勝地に加え、歴史の里檜山、能代役七夕等の… （第2回委員会時点） ◆…景勝地に加え、能代役七夕等の…
5	同意できます。 書けば長くなるので略しますが、個人的に山林の荒廃などは大変気になっております。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
6	保全・活用の後ろ部分に「新たな地域資源の掘起し、ブラッシング等も必要である。」と付け足すのはどうか、一考願いたい。	いただいたご意見を踏まえ、目標4を以下のように修正する。 【資料2：8ページ】 （修正案） ◆…文化の保全・活用、新たな地域資源の掘起しや磨き上げ等を進めていきます。 （第2回委員会時点） ◆…文化の保全・活用等を進めていく必要があると考えています。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
7	人的資源にも目を向けることも大切ではないか。	いただいたご意見を踏まえ、目標4を以下のように修正する。 【資料2：8ページ】 （修正案） ◆…農地・山林の維持・保全に加え、コミュニティの維持や活性化、地域住民等との協働・担い手の育成等による文化の保全・活用、… （第2回委員会時点） ◆…田畑・山林の維持・保全に加え、コミュニティの維持や活性化による文化の保全・活用等…
8	同意できます。	—

○視点 1～4 の全般について

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	まちづくりの目標設定における視点の並び順についてですが、人口減少や地域経済の低迷が本市の最重要課題であると受け止めています。確かに人命や財産を守ることも重要ですが、地域防災計画も別にあることから、「防災まちづくり」を視点 2 と上位に掲げることに違和感を覚えます。ご検討ください。	いただいたご意見のとおり、目標の入れ替えを行う。 いただいたご意見のとおり、人口減少や地域経済の低迷は、本市の重要な課題であると認識している。 一方、近年、豪雨による洪水や土砂災害等の自然災害が激甚化している。米代川を擁する本市にあっても、防災・減災対策は重要な課題である。また、都市計画は、安全・安心な生活基盤を形成していく役割を担っている。 以上のことから、「防災まちづくり」を優先すべきと考え、視点の 2 つ目で整理を行っていた。 【資料 2：8 ページ】
2	大変分かりやすい視点に絞り込んでいると思います。視点内での文言については、そもそもの問題の解釈を混同せずに考えることが、問題に対するアプローチの整理につながると思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、実現化方策や誘導施策の検討時）の参考とさせていただきます。
3	新イオン能代ショッピングセンターの開店（今年 12 月）で、他市町村や中心市街地にも大きな影響を与えると思います。他市町村の住民を中心市街地に呼び込めるか、施策を考えなければならないと思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。 なお、今回の計画策定にあたっては、中心市街地等の拠点性の維持・向上に向けた各種の方向性・方針の位置づけを行っていく考えである。
4	立地適正という課題に則しているかは別として、まちづくりの将来設定に向けた考え方というテーマにおいては、環日本海・隣接する世界遺産等との関連、さらにはネット社会との繋がりを大胆に組み入れるのも時代の要請ではないのか。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
5	4 つの視点の共通点は、ハードとソフトをどうつなげていくか、その方法や手段を積極的に進めていくのかということではないかと考えた。	—

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
6	拠点や連携の考え方、また、近年の災害に対する対策を盛り込んだ視点となっており良いと思います。	—
7	特にありません。 おおまかにこの４点で補っていると思います。	—
8	現在、コロナの影響で日常生活、仕事を含めて人々の生活が一変しました。早く以前の生活に戻ってくれることを願わずにはられません。 さて、今年の高校生の就職状況が新聞に載っていました。コロナの影響で県内就職が大分増えたとありました。コロナが人の生き方や価値観を変えた部分も大いにあると思います。地元の企業で若い人たちが働いてくれることは町に活気が生まれるし経済効果も計り知れません。喜ばしいことだと思います。我が故郷を冷静に考えますと、近年多発する台風や大雨、大雪の自然災害が他地域に比べて少なく、住みやすい場所だと思います。そのことを日常生活の中で子ども達に伝えていくべきと考えます。能代は海も山も川もあり自然に恵まれたところです。子ども達はこの地に生まれてから高校卒業まで 18 年間生活し、その後地元就職する人、県外就職する人、大学へ行く人、それぞれが自分の新たな人生を歩み始めます。私事ですが、自分の子どもに 18 年間果たして能代の様々な良いところを伝えたか、体験させたか、見せたか疑問です。もしかしたら能代は何も無いところだ。ダメなところだと言ってこなかったかと自問しています。これから能代を担っていく子育て中のお父さん、お母さん方には是非考えて頂きたいです。	—

■将来都市構造の設定に向けた考え方について

○拠点の形成について

中心拠点（能代地域）

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	居住の問題と中心地の拠点性の問題はベクトルは同じなのですが、アプローチを分けて考えなければ、問題が複雑化すると思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、実現化方策や誘導施策の検討時）の参考とさせていただきます。
2	空き家および空地（遊休地）対策等による土地の有効利用を図り、居住を誘導する考え方を組み込んではいかがでしょうか。	「都市のスポンジ化」は都市計画において重要な課題となっており、都市計画マスタープランや立地適正化計画においても、空き家等の対策を推し進めていく観点から、「都市機能や居住の誘導に際し、空き地・空き家を活用」を位置づける考えである。 【資料2：19・33・34・36 ページ】
3	他拠点との連携・交流を考慮し、公共交通網の拠点化（ハブ機能を含む）を図る考え方について検討ください。	いただいたご意見も踏まえつつ、都市計画マスタープランの「全体構想：交通体系構想」の検討を行った。 なお、交通体系については、能代・二ツ井の中心拠点を中心とし、道路や公共交通の整備や配置の方針を位置づける考えである。 【資料2：26～31 ページ】
4	内容について同意します。 能代地域は、能代市の中心だけでなく、周辺町村の中心都市であることも視点として捉えておいていただきたいと思います。	いただいたご意見を踏まえ、目標1を以下のように修正する。 【資料2：7 ページ】 （修正案） ・本市は、能代山本地域の中心都市であり、中でも能代地域の中心市街地は、… （第2回委員会時点） ・能代地域の中心市街地は、…

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
5	中心拠点とは…。すでに「まち」は国道7号に移りつつあると思う。	国道7号沿道は、主に沿道型の商業施設の立地により市街化が進行している、との認識である。 一方、今回中心拠点として位置づけた能代・二ツ井地域の中心部は、幹線道路沿道商業地に比べ、医療・福祉・子育て支援・行政等の多様な機能を多く有している。 『まち』をどのように捉えるのか、「中心部と幹線道路沿道をどのようにすみ分けるのか」は、都市計画マスタープランおよび立地適正化計画を検討するうえで重要な論点と捉えており、本委員会でご議論いただきたいと考えている。
6	「居住を誘導するとはどういうことか？」「どの様に誘導するのか？」は、聞かれるし、聞かれたときに説明できるようにしておくべき。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただく。
7	同意できます。	—

中心拠点（二ツ井地域）

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	近くに立地する道の駅は、都市構造的にも扱えると思うが、どうだろうか。	将来都市構造では、「集約連携型の都市構造」を示していくことが重要と考えており、一施設を拠点として取り上げることは行わない方針である。 なお、市全体を俯瞰した観点からみると、「道の駅」ふたつは、秋田県北地域の総合防災拠点に位置づけられており、本位置づけに関しては、全体構想の「防災まちづくり」の中で方針設定を検討していく考えである。 一方、地域創生機能の側面では、二ツ井地域との関係性として整理すべき事項と考えており、地域別構想の中で方針設定を検討していく考えである。
2	ふたつ道の駅との連携は？	
3	同意できます。連携をどう補完していくかがキーになると思いますが、ここで少し考えを表明しておいた方が良いかと思います。	不足機能を図るための連携促進に関しては、将来都市構造の「地域連携軸」「基幹公共交通軸」がその役割を担うという認識です。 また、これらの軸の具体的な配置や整備等方針に関しては、都市計画マスタープランの「全体構想：交通体系構想」の中で方向性・方針を位置づける考えである。
4	空き家および空地（低・未利用地）対策等による土地の有効利用を図り、居住を誘導する考え方を組み込んではいかがでしょうか。	「都市のスポンジ化」は都市計画において重要な課題となっており、都市計画マスタープランや立地適正化計画においても、空き家等の対策を推し進めていく観点から、「都市機能や居住の誘導に際し、空き地・空き家を活用」を位置づける考えである。 【資料2：19・33・34・36 ページ】
5	同意できます。 ただし、不足機能の補完をしても、人口減少により不要な機能となるケースもあると思う。二ツ井地区ばかりとは限らないが無駄遣いとならぬようその都度検討が必要だと思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討（特に、誘導施設の検討時）の参考とさせていただきます。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
6	内容について同意します。 二ツ井地域は、能代地域との連携はもとより、隣接する他市との交通結節点でもあるため、地域内のみならず、地域外との連携強化も図っていただきたいと思います。	いただいたご意見も踏まえつつ、都市計画マスタープランの「全体構想：交通体系構想」の検討を行った。 なお、交通体系については、能代・二ツ井の中心拠点を中心とし、道路や公共交通の整備や配置の方針を位置づける考えである。 【資料2：26～31 ページ】
7	「居住を誘導するとはどういうことか？」「どの様に誘導するのか？」は、聞かれるし、聞かれたときに説明できるようにしておくべき。 また、「能代地域の中心拠点との連携」の方法も質問される可能性がある。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
8	二ツ井地区での住んでいる人は、農村（農地を持っている人）の人以外は、安定した住みかたをしていると思う。 つまり、不便はないと言っている人もいる。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。
9	同意できます。	—

地区拠点

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	東能代地区拠点の近くに立地する大規模商業施設（建設中）は、中心拠点のあり方（機能等）にも大きく影響を及ぼすと想定される。都市構造として扱う必要はないか。（都市構造として認める or 認めないの議論はあろうが、実態としては能代市に大きな影響を及ぼすのであるから。）	東能代地区拠点の近くに立地予定の大規模商業施設は、土地利用構想（都市計画マスタープランの全体構想）において、当該施設単体ではなく、沿道商業地として、方針設定を行う考えである。 いただいたご意見のとおり、当該商業施設の立地は、中心拠点のあり方に影響を及ぼすものと考えており、今後の方向性として、「すみ分け」を図っていきたいと考えている。
2	東能代は今後、中核地域となり得ると思うが？（工業団地含む）	都市構造として認める・認めない等は、本委員会でご議論いただきたいと考えている。
3	上下水道は生活の基盤。尽力をつくして欲しい。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただく。
4	同意できます。 路線等については 20 年先までどう変化していくか想定できず、順次対応を変える必要もあると思います。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただく。
5	同意できます。	—

集落拠点

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	都市機能というより、集落機能ではないか。（再掲）	いただいたご意見を踏まえ、以下のよう に修正する。 【資料2：12 ページ】 （修正案） …地域住民等とともに日常生活に必要な機能の維持… （第2回委員会時点） …地域住民とともに都市機能の維持の維持…
2	中心地の人口増の目標と、集落の空き家に対する移住はどちらも必要なことと思いますが、目的がはっきりと示されていないように感じます。市としてはどちらの方向に持っていきたいのか、中心地の人口を増やすのはどんな人を想定していて、集落の空き家にはどんな人を想定しているのか、両者の差異を明確にすることが、目標の整理、住む人の理解にもつながると考えております。	市では、「第2次能代市総合計画」において、市全体で首都圏等からの移住やUターンがしやすい環境を整えていくことを位置づけており、中心部や集落など、特定の地域に限定した取組を実施しているものではない。 立地適正化計画における誘導施策の検討段階においては、居住誘導区域外から内への転居を促進する施策の検討等を実施する考えである。
3	小規模集落は特に住む人も高齢の方が多くなってきているので、今後の課題として、考えていく必要があると思う。 特に、空き家ならず、小学校など「古ぼけて」いくのを見逃すことはもったいないと思う。	小規模集落における高齢化に関し、市でもご意見と同様の課題があることを認識しており、第2回委員会資料1（10ページ）において、「コミュニティやまちづくり活動の維持・活性化」を整理していた。 小規模集落における小学校に関しては、小学校等の公共施設を適切に維持管理、活用すべきというご意見と考える。都市計画マスタープランの「全体構想：住環境・市街地整備構想」において、公共建築物の適切なマネジメントに関する方針を位置づける考え。
4	「都市機能の維持を進める」は、質問されるかも。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただく。
5	若者に期待したい。	—
6	同意できます。	—

○エリア（面）や拠点、軸の配置や位置づけについて

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	資料2、p10の表4「将来都市構造の要素および趣旨」の中にある、拠点の「市全体の視点で…」という記述は、まさにその通りである。個別の動向のみに引きずられるべきではないだろう。	—
2	軸の中での「広域連携軸」自体が、能代市内では集積地区として機能しており、拠点を繋ぐ手法ではなく、線形の拠点を認め（コンパクトシティの考えでは悪く捉えがちですが、上記でも述べたとおり決して悪いことではないと考えます）、それらと、面としての拠点の関わりを丁寧に述べる必要があるのではないかと考えております。	国道7号沿道は、都市計画マスタープランの「全体構想：土地利用構想」において、沿道商業・業務地として、方針設定を行う考えである。 その中で、中心拠点との「すみ分け」についても整理を行っており、具体的な内容については、本委員会でご議論いただきたいと考えている。
3	資料2、p11(2)将来都市構造形成の方針-①市街地エリアで、用途地域指定の範囲を「市街地エリア」としている。これでは、用途地域指定地内ではほとんど宅地化していないところも、引き続き市街化させていく方針となる。むしろ、用途地域指定地内をさらに2区分し、続く居住誘導区域指定の基本方針となるような記載が必要ではないか。	将来都市構造において「誘導促進エリア」を追加した。 本エリアは、立地適正化計画における居住誘導区域（本区域の内側に、都市機能誘導区域を含む）の境界を表現したものであり、都市機能や居住の維持や誘導等を促進する概ねの範囲を示すものである。 【資料2：10・11・16ページ】
4	市街地エリアについては、用途地域を対象としていることから範囲が広く、状況の異なる市街地の核心部を一括して整理することに違和感がある。能代地域では、市街地核心部エリアを設定し、拠点形成の考え方を整理してはいかがでしょうか。	
5	地区拠点のうち向能代と東能代は、ほぼ用途地域に属しており、中心拠点と土地利用上の差異がはっきりあるわけでもないことから、都市機能を補完し合う地区拠点として取り扱うことに違和感がある。	向能代や東能代は、一定の生活サービス施設が立地した住宅市街地として、「地区拠点」に位置づける考えである。 また、向能代・東能代は、生活サービス施設利用可能件数（資料3：4ページ）をみても、能代地域中心部とは、保有する機能の種類・数に明確な差異があると認識している。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
		上記を踏まえ、規模や機能が異なる拠点どうしの連携、保有する機能・資源の補完を促進していく考えである。
6	二ツ井地域の集落拠点は富根だけなのでしょうか。集落拠点の定義はどうか。	集落拠点は、人口の分布状況のほか、コミュニティの単位の参考として、市役所出張所（各地域センター、出張所）および小学校の配置を踏まえ設定した。
7	地域連携軸（道路）と地域連携軸（公共交通）の違いがわかりづらい。並列の関係ではないように思う。	いただいたご意見を踏まえ、以下のとおり修正する。 【資料2：14～16 ページ】 （修正案） 基幹公共交通軸 （第2回委員会時点） 地域連携軸（公共交通）
8	檜山集落、常盤集落は地域連携軸（道路）で結ばれているが、公共交通系は考えない、という理解でよいか。	地域連携軸（公共交通）は、市全体の視点から本市の骨格をなす基幹的な公共交通路線（鉄道と主要なバス路線）に位置づけを行う考えである。
9	複数の集落拠点（常盤、浅内、檜山）について、中心拠点、地区拠点間が地域連携軸で結ばれていないが、交通弱者の交通手段についてどのように考えているのか、ご教示願います。	常盤・浅内・檜山の集落拠点は、地域連携軸（公共交通）にアクセスする支線交通として、バス路線やデマンド型乗合タクシー等の移動手段を確保していく考えである。支線交通に関しては、交通体系の構想（都市計画マスタープランの全体構想）において具体的な方針を位置づける予定である。 なお現状では、全ての集落拠点にバス路線が運行されているほか、浅内や檜山ではデマンド型乗合タクシーの運行も行われている。
10	現状では違和感はありません。	—
11	東能代は、機織、仁井田、煉瓦場、鰯渕、道地、扇田等でひとつの地域となっている。 しかし、機織、仁井田、煉瓦場の世帯数や人口は、本庁管轄になっており違和感がある。	世帯数や人口数の集計にあたっては、各地域センターが所管している区域をもって行っている。 扇淵地域センターの所管区域は「旧扇淵村一円」であることから、これに含まれない地域は、本庁所管区域として集計している。

【その他のご意見等について】

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
1	今回のマスタープラン策定にあたり、2010 年策定マスタープランで掲げた整備方針の実施実績（アウトプット）は第 1 回委員会の参考資料 2 で示されたが、4 つの将来都市像や目標都市構造の実現度（アウトカム）の評価もすべきではないか。	いただいたご意見を踏まえ、4 つの将来都市像や目標都市構造の実現度（アウトカム）の評価を行った。 なお、現行の都市計画マスタープランでは、目標値の設定を行っていない。そのため、現行計画の「将来都市像の考え方」を参考に、実現度等の評価について、既往統計調査等を活用し、実施した。 【資料 1 参考資料 2】
2	都市マスおよび立地適性化につきまして、おまとめいただきましてありがとうございます。非常に細かく、丁寧にまとめられており、能代市の将来について思いを馳せると共に、勉強させていただいております。 あくまで私の中で、こうも考えられるのではないかと提言させていただいた次第ではありますが、多少なりとも計画の参考となれば幸いに存じます。 全体としてやはり課題を混同している面が多く見られました。多角的な課題を集約してお考えいただいた結果でもあるのかとは思いますが、課題の本質や解決のアプローチを見誤ってはいけないと思います。一見、同じベクトルのものは、同様に扱ってしまいがちですが、本質的な課題解決には踏み込まれていないところがありましたので、今一度、課題・目的の整理を多少なりと行っていただけますことをお願いいたします。乱筆失礼いたしました。 お手数をおかけいたしますが、何卒よろしくお願いいたします。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただきます。

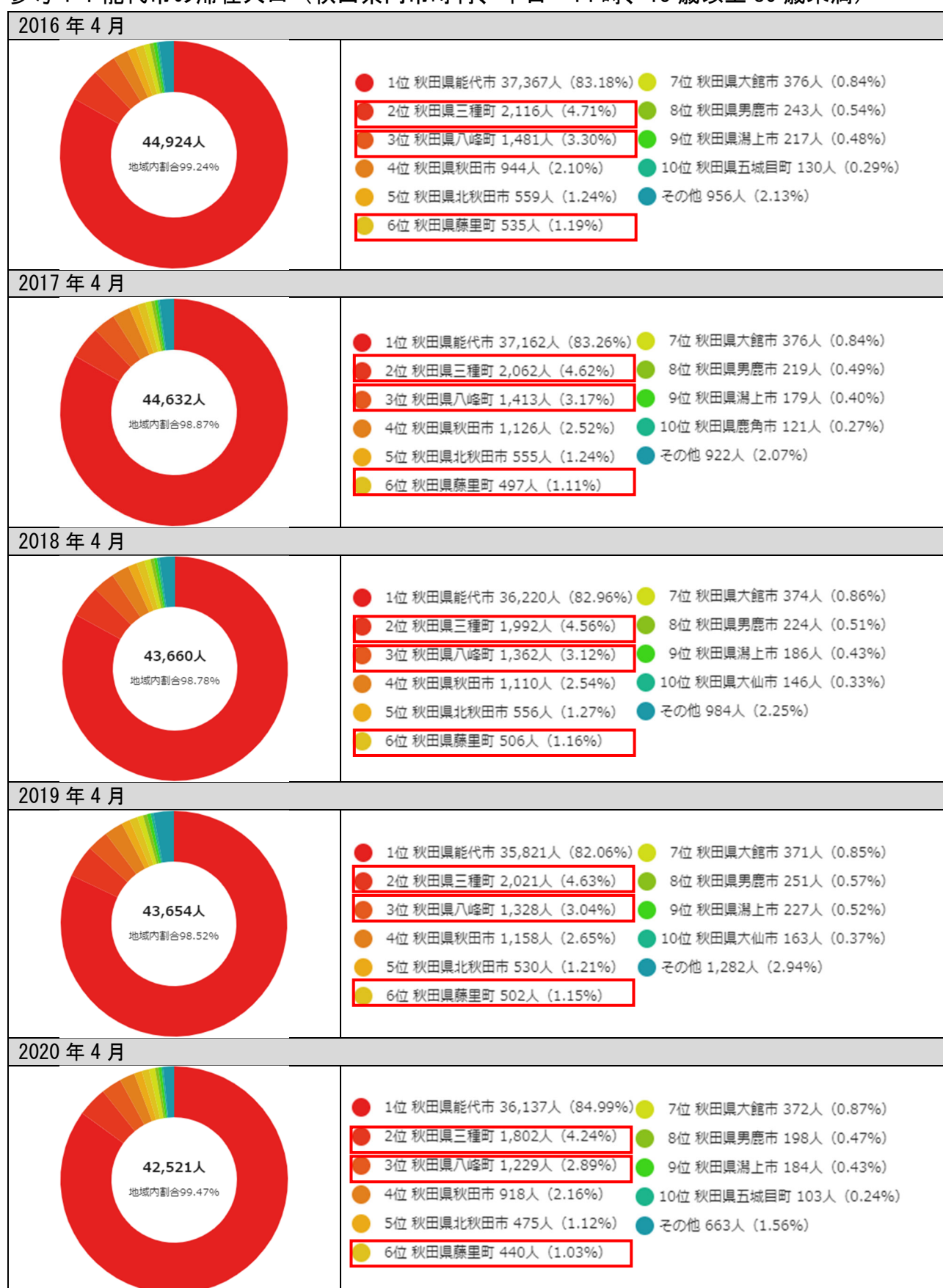
No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
3	畠町を通る人は、学生または買い物を するところだけとなっていくと思う。特 に老人の方々は、車（マイカー）を利用 できなくなり、外出するのも「ままなら ず」、日々を過ごすことが多くなると思 う。今一度、畠町アーケードを、皆が楽 しめることも大事だが、1日・2日でイ ベントをやるのではなく、歩く買い物、 医療、福祉を含めて、多種・多様な店舗 入り口を「軒下」に構え、そこを通れば、 ついでに役所仕事、銀行など、用事を済 ませることのできる通りにするのも考 えて欲しい。 市から少し離れた所にはバス停があ りますが、今は道路も良くなり、昭和の バス停も大事であろうが、横道を走る巡 回バス（集落バス）も必要ではないか。 昭和生まれの人たちがマイカー無し でも能代の街に行く気を持たせ、必要な こと、物がそこでそろっていることも考 えて欲しい。 バスケとかにあまり拘らず、外からの 人たちも畠町、柳町、万町を歩けば用事 が足せる（バスを利用したり）にぎわい の人波になれることを願っている。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検 討の参考とさせていただく。 なお、今回の計画策定にあたっては、畠 町を含む能代中心部等の拠点性の維持・ 向上に向けた各種の方向性・方針の位置 づけを行っていく考えである。
4	中心市街地の畠町等にある商店は、ほ とんどシャッターを閉じて営業をして いませんが、人は住んでいるのでしょうか。 人が住んでいるのであれば、新たに その場所を借りて、営業をするのは難し いと思われます。空き家であれば、商売 をする人が出てくるかも？	いただいたご意見を踏まえ、今後の検 討の参考とさせていただく。
5	本来、人口減少であれば「まち」はコ ンパクトにするべきですが、大型店の誘 致等で「まち」は拡大していく。時代に 逆行する能代。未来が心配ですね。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検 討の参考とさせていただく。 なお、今回の計画策定にあたっては、 中心市街地等の拠点性の維持・向上に向 けた各種の方向性・方針の位置づけを行 っていく考えである。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
6	中心拠点・地区拠点・集落拠点、それぞれの課題に則した施策はもちろんであるが、それぞれの市民が施策に対する格差感を持たれないようにしなければならない。	いただいたご意見を踏まえ、今後の検討の参考とさせていただく。
7	日頃、生活していて自分にとってそうあってほしいと感じるプランであった。 ただ、これが20年後、10年後、5年後となると、このプランが、スピード感として、どうなっていくのか、もつのだろうかと感じる。あくまでもプランするのが意義深いのだが、PDCAのPで終了としないよう、願うばかりである。 ただ、高齢者の対処が多いのに対し、20年後、地域の中心的担い手の若者、高校生や20歳過ぎの若人の想いやイメージが、もっとあればと感じた。もちろん、幼児、小学生も将来の担い手だが。人口がないと、地域のプランもできないとつくづく感じた。 強いて言えば、視点1に「次代の担い手」についての文言があってもよいのではないかと感じた。	いただいたご意見を踏まえ、目標4を以下のように修正する。 【資料2：8ページ】 (修正案) ◆…農地・山林の維持・保全に加え、コミュニティの維持や活性化、地域住民等との協働・担い手の育成等による文化の保全・活用、… (第2回委員会時点) ◆…田畑・山林の維持・保全に加え、コミュニティの維持や活性化による文化の保全・活用等…
8	資料1のP1に他計画との連携と明記されておりますが、連携を図る部分が見えてきません。市町村により方針は違うと思いますので、他計画の必要な部分を抜粋するなどして連携が分かるようにしていただきたいです。	全体構想（都市計画マスタープラン）において具体の方針を提示する際、関連計画の関係箇所を抜粋・明示するなど、必要に応じて参考提示させていただく。
9	内容的に他には特にありません。 今回、説明資料配布とDVD説明により時間が拘束されず、理解しやすかった。コロナに関係なく今後この方式でも良いのではないかと思います。	今回の委員会では、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、書面開催とさせていただいた。 本来であれば、各委員の皆さまに一堂に会し、ご議論を行いながら計画検討を進めていきたいと考えており、第3回委員会以降については、会議形式での開催を基本とする予定である。 なお、開催形式は、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、その都度判断していく方針である。

No.	意見等（策定委員より）	回答（事務局案）
10	動画資料、紙資料とても分かりやすかったです。 そして事前配布のため、普段の会議よりも理解がすすみました。 参考にさせていただきます。 ありがとうございました。	—

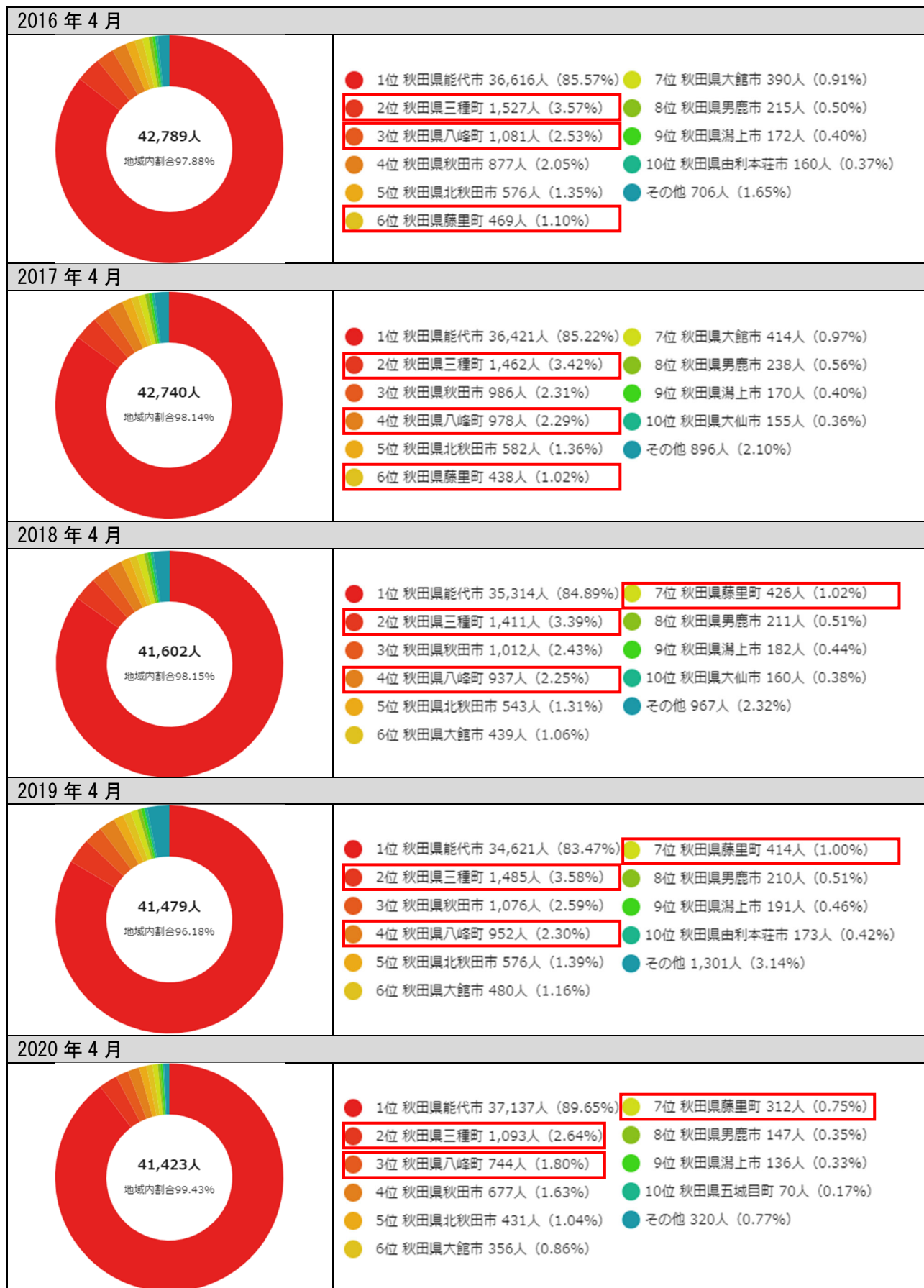
【1 ページ「No. 2・3 意見」に関する参考資料】

参考 1：能代市の滞在人口（秋田県内市町村、平日・14 時、15 歳以上 80 歳未満）



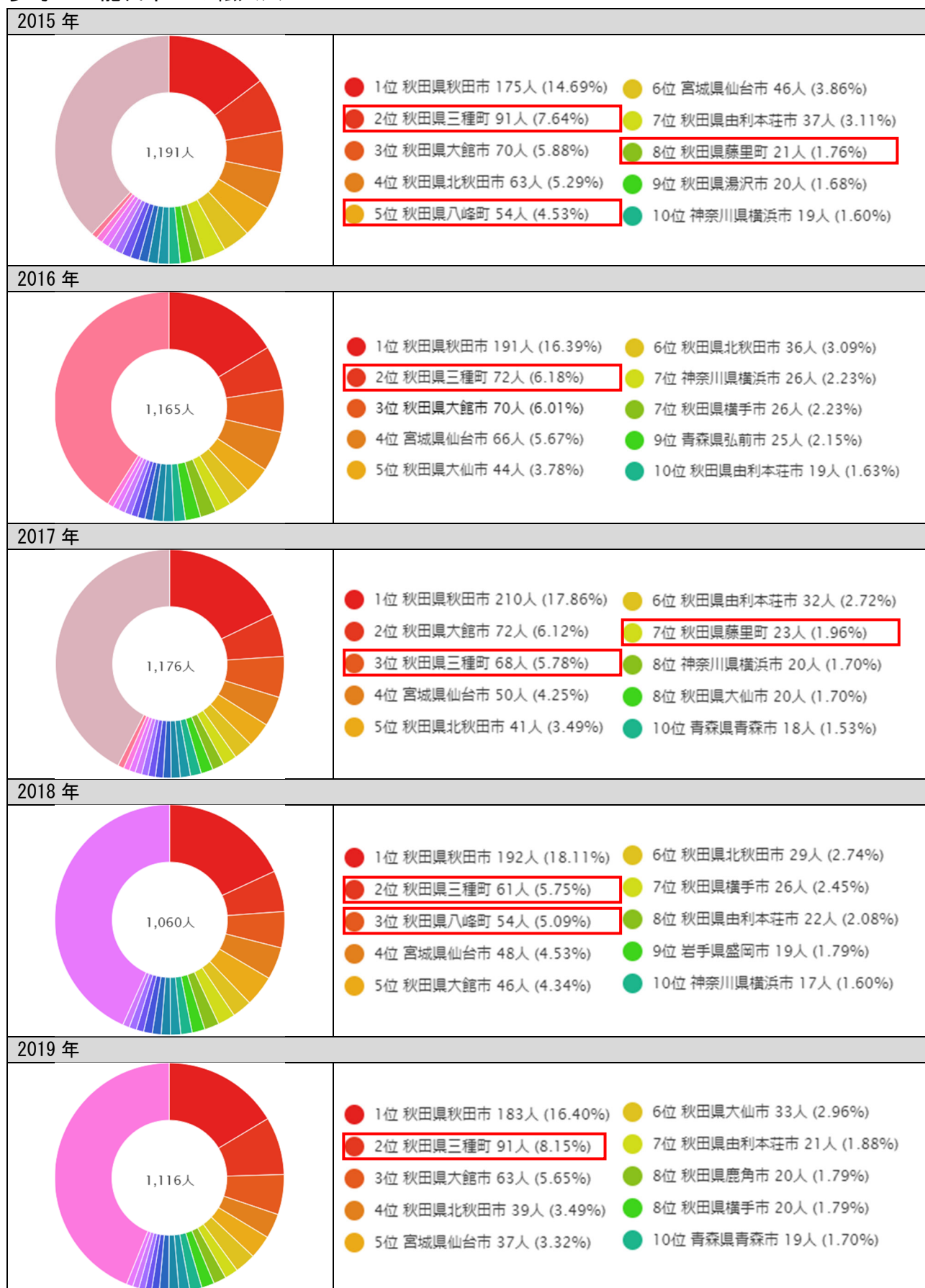
※出典：RESAS（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」、総務省「平成 27 年国勢調査」）

参考 2 : 能代市の滞在人口 (秋田県内市町村、休日・14 時、15 歳以上 80 歳未満)



※出典 : RESAS (株式会社 N T T ドコモ・株式会社 ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」、総務省「平成 27 年国勢調査」)

参考 3 : 能代市への転入人口



※出典：RESAS（総務省「住民基本台帳人口移動報告」）